

1

- 【解答】 (1) $x^4 - 12x^3 + 54x^2 - 108x + 81$
 (2) $64x^6 + 192x^5y + 240x^4y^2 + 160x^3y^3 + 60x^2y^4 + 12xy^5 + y^6$

【解説】

- (1) $(x-3)^4 = {}_4C_0x^4 + {}_4C_1x^3(-3) + {}_4C_2x^2(-3)^2 + {}_4C_3x(-3)^3 + {}_4C_4(-3)^4$
 $= 1 \cdot x^4 + 4 \cdot x^3 \cdot (-3) + 6x^2 \cdot 9 + 4x(-27) + 1 \cdot 81$
 $= x^4 - 12x^3 + 54x^2 - 108x + 81$
 (2) $(2x+y)^6 = {}_6C_0(2x)^6 + {}_6C_1(2x)^5y + {}_6C_2(2x)^4y^2$
 $+ {}_6C_3(2x)^3y^3 + {}_6C_4(2x)^2y^4 + {}_6C_5(2x)y^5 + {}_6C_6y^6$
 $= 64x^6 + 192x^5y + 240x^4y^2 + 160x^3y^3 + 60x^2y^4 + 12xy^5 + y^6$

2

- 【解答】 (1) 720 (2) -20000 (3) 5376

【解説】

- (1) 展開式の一般項は ${}_5C_r(2x)^{5-r}(3y)^r = {}_5C_r \cdot 2^{5-r} \cdot 3^r x^{5-r} y^r$
 x^3y^2 の項は $r=2$ のときで、その係数は
 ${}_5C_2 \cdot 2^3 \cdot 3^2 = 10 \cdot 8 \cdot 9 = 720$
 (2) 展開式の一般項は ${}_6C_r(5x^2)^{6-r} \cdot (-2)^r = {}_6C_r \cdot 5^{6-r} \cdot (-2)^r x^{2(6-r)}$
 ここで、 $2(6-r)=6$ とすると $r=3$
 よって、 x^6 の項の係数は
 ${}_6C_3 \cdot 5^3 \cdot (-2)^3 = 20 \cdot 125 \cdot (-8) = -20000$
 (3) 展開式の一般項は ${}_9C_r(x^2)^{9-r} \left(-\frac{2}{x}\right)^r = {}_9C_r \cdot (-2)^r \frac{x^{2(9-r)}}{x^r}$
 これが定数項となるとき $\frac{x^{2(9-r)}}{x^r} = 1$ よって $x^{18-2r} = x^r$
 両辺の x の指数を比較して $18-2r=r$ ゆえに $r=6$
 よって、定数項は ${}_9C_6 \cdot (-2)^6 = 84 \cdot 64 = 5376$

3

【解答】 略

【解説】

$(1+x)^n = {}_nC_0 + {}_nC_1x + {}_nC_2x^2 + \dots + {}_nC_nx^n$
 において、 $x=2$ とすると
 $3^n = {}_nC_0 + 2{}_nC_1 + 2^2{}_nC_2 + \dots + 2^n{}_nC_n$
 よって、与えられた等式が成り立つ。

4

- 【解答】 (1) 30 (2) 840

【解説】

- (1) xy^2z^2 の項の係数は $\frac{5!}{1!2!2!} = \frac{5 \cdot 4 \cdot 3}{2 \cdot 1} = 30$
 【別解】 $\{(x+y+z)^5\}$ の展開式において、 z^2 を含む項は ${}_5C_2(x+y)^3z^2$
 また、 $(x+y)^3$ の展開式において、 xy^2 の項の係数は ${}_3C_2$
 よって、 xy^2z^2 の項の係数は ${}_5C_2 \times {}_3C_2 = 10 \times 3 = 30$
 (2) $(a+b-2c)^7$ の $a^2b^3c^2$ の項は

$$\frac{7!}{2!3!2!} a^2b^3(-2c)^2 = \frac{7!}{2!3!2!} (-2)^2 a^2b^3c^2$$

よって、 $a^2b^3c^2$ の項の係数は

$$\frac{7!}{2!3!2!} \times (-2)^2 = \frac{7 \cdot 6 \cdot 5 \cdot 4}{2 \cdot 1 \times 2 \cdot 1} \times 4 = 840$$

【別解】 $\{(a+b-2c)^7\}$ の展開式において、 c^2 を含む項は

$${}_7C_2(a+b)^5(-2c)^2 = {}_7C_2(-2)^2(a+b)^5c^2$$

また、 $(a+b)^5$ の展開式において、 a^2b^3 の項の係数は ${}_5C_3$

よって、 $a^2b^3c^2$ の項の係数は

$${}_7C_2(-2)^2 \times {}_5C_3 = 21 \times 4 \times 10 = 840$$

5

【解答】 77

【解説】

$(1+x+x^2)^7$ の展開式の一般項は

$$\frac{7!}{p!q!r!} \cdot 1^p x^q (x^2)^r = \frac{7!}{p!q!r!} x^{q+2r}$$

p, q, r は整数で $p \geq 0, q \geq 0, r \geq 0, p+q+r=7$

x^3 の項は $q+2r=3$ すなわち $q=3-2r$ のときである。

$q \geq 0$ から $3-2r \geq 0$ よって $r=0, 1$

$q=3-2r, p=7-q-r$ から

$$r=0 \text{ のとき } q=3, p=4$$

$$r=1 \text{ のとき } q=1, p=5$$

すなわち $(p, q, r) = (4, 3, 0), (5, 1, 1)$

ゆえに、 x^3 の項の係数は

$$\frac{7!}{4!3!0!} + \frac{7!}{5!1!1!} = \frac{7 \cdot 6 \cdot 5}{3 \cdot 2 \cdot 1} + 7 \cdot 6 = 35 + 42 = 77$$

【別解】 $(1+x+x^2)^7 = \{(1+x+x^2)^7\}$ の一般項は ${}_7C_r(1+x)^{7-r}(x^2)^r$ であるから、 x^3 の項は、

次の2つの場合に現れて、また、これ以外はない。

$${}_7C_0(1+x)^7(x^2)^0 \text{ から } (1+x)^7 \text{ の } x^3 \text{ の項は } {}_7C_0 \cdot {}_7C_3 x^3$$

$${}_7C_1(1+x)^6(x^2)^1 \text{ から } (1+x)^6 \text{ の } x \text{ の項は } {}_7C_1 \cdot {}_6C_1 x \cdot x^2$$

よって、求める x^3 の項の係数は

$${}_7C_0 \cdot {}_7C_3 + {}_7C_1 \cdot {}_6C_1 = 1 \cdot 35 + 7 \cdot 6 = 77$$

1

- 【解答】 (1) $a^6 + 6a^5b + 15a^4b^2 + 20a^3b^3 + 15a^2b^4 + 6ab^5 + b^6$
 (2) $x^7 - 7x^6 + 21x^5 - 35x^4 + 35x^3 - 21x^2 + 7x - 1$
 (3) $32x^5 + 80x^4y + 80x^3y^2 + 40x^2y^3 + 10xy^4 + y^5$
 (4) $81x^4 - 216x^3y + 216x^2y^2 - 96xy^3 + 16y^4$

【解説】

- (1) $(a+b)^6 = {}_6C_0a^6 + {}_6C_1a^5b + {}_6C_2a^4b^2 + {}_6C_3a^3b^3 + {}_6C_4a^2b^4 + {}_6C_5ab^5 + {}_6C_6b^6$
 $= a^6 + 6a^5b + 15a^4b^2 + 20a^3b^3 + 15a^2b^4 + 6ab^5 + b^6$
 (2) $(x-1)^7 = {}_7C_0x^7 + {}_7C_1x^6(-1) + {}_7C_2x^5(-1)^2 + {}_7C_3x^4(-1)^3 + {}_7C_4x^3(-1)^4 + {}_7C_5x^2(-1)^5$
 $+ {}_7C_6x(-1)^6 + {}_7C_7(-1)^7$
 $= x^7 - 7x^6 + 21x^5 - 35x^4 + 35x^3 - 21x^2 + 7x - 1$
 (3) $(2x+y)^5 = {}_5C_0(2x)^5 + {}_5C_1(2x)^4y + {}_5C_2(2x)^3y^2 + {}_5C_3(2x)^2y^3 + {}_5C_4(2x)y^4 + {}_5C_5y^5$
 $= 32x^5 + 80x^4y + 80x^3y^2 + 40x^2y^3 + 10xy^4 + y^5$
 (4) $(3x-2y)^4 = {}_4C_0(3x)^4 + {}_4C_1(3x)^3(-2y) + {}_4C_2(3x)^2(-2y)^2 + {}_4C_3(3x)(-2y)^3 + {}_4C_4(-2y)^4$
 $= 81x^4 - 216x^3y + 216x^2y^2 - 96xy^3 + 16y^4$

2

- 【解答】 (1) 280 (2) x^4 の項の係数は -21, x^3 の項の係数は 0 (3) 120
 (4) 180

【解説】

- (1) $(x+2)^7$ の展開式の一般項は ${}_7C_r x^{7-r} 2^r = {}_7C_r \cdot 2^r x^{7-r}$
 x^4 の項は、 $7-r=4$ より $r=3$ のときである。
 ゆえに、求める係数は ${}_7C_3 \cdot 2^3 = 35 \times 8 = 280$
 (2) $(x^2-1)^7$ の展開式の一般項は ${}_7C_r (x^2)^{7-r} \cdot (-1)^r = (-1)^r {}_7C_r x^{14-2r}$
 x^4 の項は、 $14-2r=4$ より $r=5$ のときである。
 ゆえに、 x^4 の項の係数は $(-1)^5 {}_7C_5 = -21$
 x^3 の項は、 $14-2r=3$ のときであるが、この等式を満たす0以上の整数 r は存在しない。
 よって、 x^3 の項の係数は 0
 (3) $\left(x^2 + \frac{1}{x}\right)^{10}$ の展開式の一般項は ${}_{10}C_r (x^2)^{10-r} \cdot \left(\frac{1}{x}\right)^r = {}_{10}C_r \cdot \frac{x^{20-2r}}{x^r} = {}_{10}C_r x^{20-3r}$
 x^{11} の項は、 $20-3r=11$ より $r=3$ のときである。
 よって、求める係数は ${}_{10}C_3 = 120$
 (4) $\left(2x^4 - \frac{1}{x}\right)^{10}$ の展開式の一般項は
 ${}_{10}C_r (2x^4)^{10-r} \cdot \left(-\frac{1}{x}\right)^r = (-1)^r {}_{10}C_r \cdot 2^{10-r} \cdot \frac{x^{40-4r}}{x^r} = (-1)^r {}_{10}C_r \cdot 2^{10-r} \cdot x^{40-5r}$
 定数項は、 $40-5r=0$ より $r=8$ のときである。
 よって $(-1)^8 {}_{10}C_8 \cdot 2^{10-8} = {}_{10}C_2 \cdot 2^2 = 180$

3

- 【解答】 (1) 略 (2) 略 (3) 略

【解説】

二項定理により $(1+x)^n = {}_nC_0 + {}_nC_1x + {}_nC_2x^2 + \dots + {}_nC_nx^n \dots \dots$ ①

- (1) ①に $x=-3$ を代入して $(-2)^n = {}_nC_0 - 3{}_nC_1 + 9{}_nC_2 - \dots + (-3)^n {}_nC_n$

(2) ①に、 $x = -1$ を代入して ${}_n C_0 - {}_n C_1 + {}_n C_2 - \dots + (-1)^n {}_n C_n = 0$

(3) ①に $x = -\frac{1}{2}$ を代入して $\left(\frac{1}{2}\right)^n = {}_n C_0 - \frac{{}_n C_1}{2} + \frac{{}_n C_2}{2^2} - \dots + (-1)^n \frac{{}_n C_n}{2^n}$

4

【解答】 (1) 12 (2) 6

【解説】

(1) $(x+2y+3z)^4$ の x^3z の項は

$$\frac{4!}{3!0!1!} x^3(2y)^0 \cdot 3z = \frac{4!}{3!} \cdot 3x^3z$$

ゆえに、 x^3z の項の係数は

$$\frac{4!}{3!} \cdot 3 = 12$$

【別解】 $(x+2y+3z)^4$ の展開式において、 z を含む項は

$${}_4 C_1 (x+2y)^3 (3z) = {}_4 C_1 \cdot 3(x+2y)^3 z$$

また、 $(x+2y)^3$ の展開式において、 x^3 の項の係数は

$${}_3 C_0$$

よって、 x^3z の項の係数は

$${}_4 C_1 \cdot 3 \times {}_3 C_0 = 12 \times 1 = 12$$

(2) $\left(2x - \frac{1}{2}y + z\right)^4$ の xy^2z の項は

$$\frac{4!}{1!2!1!} (2x) \left(-\frac{1}{2}y\right)^2 z = \frac{4!}{2!} \cdot 2 \left(-\frac{1}{2}\right)^2 xy^2z$$

ゆえに、 xy^2z の項の係数は

$$\frac{4!}{2!} \cdot 2 \left(-\frac{1}{2}\right)^2 = 6$$

【別解】 $\left(2x - \frac{1}{2}y + z\right)^4$ の展開式において、 z を含む項は

$${}_4 C_1 \left(2x - \frac{1}{2}y\right)^3 z$$

また、 $\left(2x - \frac{1}{2}y\right)^3$ の展開式において、 xy^2 の項は

$${}_3 C_2 (2x) \left(-\frac{1}{2}y\right)^2 = {}_3 C_2 \cdot 2 \left(-\frac{1}{2}\right)^2 xy^2$$

よって、 xy^2z の項の係数は

$${}_4 C_1 \times {}_3 C_2 \cdot 2 \left(-\frac{1}{2}\right)^2 = 4 \times \frac{3}{2} = 6$$

5

【解答】 -3510

【解説】

$(x^2 - 3x + 1)^{10}$ の展開式の一般項は

$$\frac{10!}{p!q!r!} (x^2)^p (-3x)^q \cdot 1^r = \frac{10!}{p!q!r!} (-3)^q x^{2p+q}$$

p, q, r は整数で $p \geq 0, q \geq 0, r \geq 0, p+q+r=10$

x^3 の項は $2p+q=3$ すなわち $q=3-2p$ のときである。

$q \geq 0$ から $3-2p \geq 0$ よって $p=0, 1$

$q=3-2p, r=10-p-q$ から

$p=0$ のとき $q=3, r=7$

$p=1$ のとき $q=1, r=8$

すなわち $(p, q, r) = (0, 3, 7), (1, 1, 8)$

よって、 x^3 の項の係数は

$$\frac{10!}{0!3!7!} \cdot (-3)^3 + \frac{10!}{1!1!8!} \cdot (-3) = -3240 - 270 = -3510$$

1

【解答】 (1) $n=15$ (2) $\frac{(2n)!}{(n!)^2}$

【解説】

(1) $(2x+1)^n$ の展開式における一般項は ${}_n C_r (2x)^{n-r} \cdot 1^r = {}_n C_r 2^{n-r} x^{n-r}$

$n-r=2$ とすると $r=n-2$ x^2 の係数が420であることから ${}_n C_{n-2} = 420$

よって $\frac{n(n-1)}{2} \cdot 4 = 420$ $n > 0$ であるから $n=15$

(2) $\left(x + \frac{1}{x}\right)^{2n}$ の展開式の一般項は ${}_{2n} C_r \cdot x^{2n-r} \left(\frac{1}{x}\right)^r = {}_{2n} C_r \cdot x^{2n-2r}$

これが定数項となるのは $r=n$ のときである。

よって、定数項は ${}_{2n} C_n = \frac{(2n)!}{(n!)^2}$

2

【解答】 $a=8, b=11$; x^2z^2 の係数は726

【解説】

$(x+ay+bz)^4$ の展開式における一般項は $\frac{4!}{p!q!r!} x^p \cdot (ay)^q \cdot (bz)^r = \frac{4!}{p!q!r!} a^q b^r x^p y^q z^r$

ただし、 p, q, r は0以上の整数で $p+q+r=4$

x^2yz の項は $p=2, q=1, r=1$ のときで、その係数が1056であるから

$$\frac{4!}{2!1!1!} ab = 1056 \quad \text{よって} \quad ab = 88$$

x^3z の項は $p=3, q=0, r=1$ のときで、その係数が44であるから $\frac{4!}{3!0!1!} b = 44$

よって $b=11$ したがって $a=8, b=11$

また、 x^2z^2 の項の係数は $p=2, q=0, r=2$ のときで、その係数は $\frac{4!}{2!0!2!} 11^2 = 726$

3

【解答】 (1) 略 (2) 略

【解説】

(1) 二項定理により

$$(1+a)^n = {}_n C_0 + {}_n C_1 a + {}_n C_2 a^2 + \dots + {}_n C_n a^n$$

$n \geq 2, a > 0$ であるから、 $2 \leq r \leq n$ のとき $a^r > 0$

また、 $2 \leq r \leq n$ のとき ${}_n C_r > 0$

よって ${}_n C_r a^r > 0$

ゆえに $(1+a)^n = {}_n C_0 + {}_n C_1 a + {}_n C_2 a^2 + \dots + {}_n C_n a^n$

$$= 1 + na + ({}_n C_2 a^2 + \dots + {}_n C_n a^n)$$

$$> 1 + na$$

(2) $n \geq 2$ であるから $\frac{1}{n} > 0$

よって、(1)の不等式で $a = \frac{1}{n}$ とおくと

$$\left(1 + \frac{1}{n}\right)^n > 1 + n \cdot \frac{1}{n} = 1 + 1 = 2$$

ゆえに $\left(1 + \frac{1}{n}\right)^n > 2$

1

【解答】 (1) 931 (2) 81

【解説】

(1) 二項定理により $11^{13} = (10+1)^{13}$
 $= 10^{13} + {}_{13}C_1 \times 10^{12} + \dots + {}_{13}C_{10} \times 10^3 + {}_{13}C_{11} \times 10^2 + {}_{13}C_{12} \times 10 + 1$
 $= 10^3(10^{10} + {}_{13}C_1 \times 10^9 + \dots + {}_{13}C_{10}) + \frac{13 \cdot 12}{2} \times 10^2 + 13 \times 10 + 1$
 $= 10^3(10^{10} + {}_{13}C_1 \times 10^9 + \dots + {}_{13}C_{10}) + 7931$
 $= 1000(10^{10} + {}_{13}C_1 \times 10^9 + \dots + {}_{13}C_{10} + 7) + 931$

$10^{10} + {}_{13}C_1 \times 10^9 + \dots + {}_{13}C_{10} + 7$ は整数であるから、

11^{13} を 1000 で割った余りは 931

(2) 二項定理により

$$33^{20} = (30+3)^{20} = {}_{20}C_0 30^{20} + {}_{20}C_1 30^{19} \cdot 3^1 + \dots + {}_{20}C_{18} 30^2 \cdot 3^{18} + {}_{20}C_{19} 30^1 \cdot 3^{19} + {}_{20}C_{20} 3^{20}$$

$30^2 = 900$ および $30 \cdot 3 = 90$ は 90 で割り切れるから

$$33^{20} = 90k + {}_{20}C_{20} 3^{20} \quad (k \text{ は整数})$$

よって、 33^{20} を 90 で割った余りは、 ${}_{20}C_{20} 3^{20}$ すなわち 3^{20} を 90 で割った余りに等しい。

$$3^{20} = (3^4)^5 = 81^5 = (90-9)^5 = {}_5C_0 90^5 + \dots + {}_5C_4 90^1 \cdot (-9)^4 + {}_5C_5 (-9)^5$$

よって $3^{20} = 90l + (-9)^5$ (l は整数)

ゆえに、 3^{20} を 90 で割った余りは、 $(-9)^5$ を 90 で割った余りに等しい。

$$(-9)^5 = (-9)^4 \cdot (-9) = 81^2 \cdot (-9) = (90-9)^2 \cdot (-9) = (90^2 - 2 \cdot 90 \cdot 9 + 81) \cdot (-9)$$

よって $(-9)^5 = 90m + 81 \cdot (-9)$ (m は整数)

ゆえに $(-9)^5 = 90m + (90-9) \cdot (-9) = 90(m-9) + 81$

$m-9$ は整数であるから、 $(-9)^5$ を 90 で割った余りは 81

したがって、 33^{20} を 90 で割った余りは 81

2

【解答】 (1) 略 (2) 略 (3) 略

【解説】

$(1+x)^n = {}_n C_0 + {}_n C_1 x + \dots + {}_n C_r x^r + \dots + {}_n C_n x^n \dots \textcircled{1}$ とする。

(1) $\textcircled{1}$ の等式において、 $x = -\frac{1}{2}$ を代入すると

$$\left(1 - \frac{1}{2}\right)^n = {}_n C_0 + {}_n C_1 \left(-\frac{1}{2}\right) + {}_n C_2 \left(-\frac{1}{2}\right)^2 + \dots + {}_n C_n \left(-\frac{1}{2}\right)^n$$

ゆえに ${}_n C_0 - \frac{{}_n C_1}{2} + \frac{{}_n C_2}{2^2} - \dots + (-1)^n \frac{{}_n C_n}{2^n} = \frac{1}{2^n}$

(2) $\textcircled{1}$ の等式において、 $x=1$ を代入すると

$$2^n = {}_n C_0 + {}_n C_1 + {}_n C_2 + \dots + {}_n C_n \dots \textcircled{2}$$

$\textcircled{1}$ の等式において、 $x=-1$ を代入すると

$$0 = {}_n C_0 - {}_n C_1 + {}_n C_2 - \dots - {}_n C_n \dots \textcircled{3}$$

$\textcircled{2} + \textcircled{3}$ から $2^n = 2({}_n C_0 + {}_n C_2 + \dots + {}_n C_{n-1})$

$\textcircled{2} - \textcircled{3}$ から $2^n = 2({}_n C_1 + {}_n C_3 + \dots + {}_n C_n)$

したがって ${}_n C_0 + {}_n C_2 + \dots + {}_n C_{n-1} = {}_n C_1 + {}_n C_3 + \dots + {}_n C_n = 2^{n-1}$

(3) $\textcircled{1}$ の等式において、 $x=-1$ を代入すると

$$0 = {}_n C_0 - {}_n C_1 + {}_n C_2 - \dots + {}_n C_n \dots \textcircled{4}$$

よって、 $\textcircled{2} + \textcircled{4}$ から $2^n = 2({}_n C_0 + {}_n C_2 + \dots + {}_n C_n)$

$$\textcircled{2} - \textcircled{4} \text{ から } 2^n = 2({}_n C_1 + {}_n C_3 + \dots + {}_n C_{n-1})$$

したがって ${}_n C_0 + {}_n C_2 + \dots + {}_n C_n = {}_n C_1 + {}_n C_3 + \dots + {}_n C_{n-1} = 2^{n-1}$

1

【解答】 (1) 商 $x+2$, 余り 2 (2) 商 $3x-1$, 余り $6x+6$

【解説】

$$(1) \begin{array}{r} x+2 \\ x+3 \overline{) x^2+5x+8} \\ \underline{x^2+3x} \\ 2x+8 \\ \underline{2x+6} \\ 2 \end{array}$$

よって、商は $x+2$, 余りは 2

$$(2) \begin{array}{r} 3x-1 \\ x^2+3x-1 \overline{) 3x^3+8x^2+7} \\ \underline{3x^3+9x^2-3x} \\ -x^2+3x+7 \\ \underline{-x^2-3x+1} \\ 6x+6 \end{array}$$

よって、商は $3x-1$, 余りは $6x+6$

2

【解答】 (1) $A=2x^3-7x^2+2x+3$ (2) $B=2x^2-x+2$

【解説】

(1) 条件から $A=(x^2-2x-1)(2x-3)-2x$

右辺を展開して整理すると $A=2x^3-7x^2+2x+3$

(2) 条件から

$$6x^3-x^2+3x+5=B(3x+1)-2x+3$$

よって $B(3x+1)=6x^3-x^2+5x+2$

ゆえに、 B は $6x^3-x^2+5x+2$ を $3x+1$ で割ったときの商である。

右の計算から $B=2x^2-x+2$

$$\begin{array}{r} 2x^2-x+2 \\ 3x+1 \overline{) 6x^3-x^2+5x+2} \\ \underline{6x^3+2x^2} \\ -3x^2+5x \\ \underline{-3x^2-x} \\ 6x+2 \\ \underline{6x+2} \\ 0 \end{array}$$

3

【解答】 (1) $x-3$ (2) $\frac{5}{x+2}$ (3) $\frac{a^2+b^2}{(a+b)(a-b)}$ (4) $\frac{1}{(x+1)(x+2)}$

【解説】

$$(1) \text{ (与式) } = \frac{x^2-9}{x+3} = \frac{(x+3)(x-3)}{x+3} = x-3$$

$$(2) \text{ (与式) } = \frac{5x}{x^2-4} - \frac{10}{x^2-4} = \frac{5x-10}{x^2-4} = \frac{5(x-2)}{(x+2)(x-2)} = \frac{5}{x+2}$$

$$(3) \text{ (与式) } = \frac{a}{a-b} - \frac{b}{a+b} = \frac{a \times (a+b)}{(a-b) \times (a+b)} - \frac{b \times (a-b)}{(a+b) \times (a-b)} = \frac{a^2+ab-(ab-b^2)}{(a+b)(a-b)} = \frac{a^2+b^2}{(a+b)(a-b)}$$

$$(4) \text{ (与式) } = \frac{3}{(x+2)(x-1)} - \frac{2}{(x+1)(x-1)}$$

$$= \frac{3 \times (x+1)}{(x+2)(x-1) \times (x+1)} - \frac{2 \times (x+2)}{(x+1)(x-1) \times (x+2)}$$

$$= \frac{3(x+1) - 2(x+2)}{(x+1)(x+2)(x-1)} = \frac{x-1}{(x+1)(x+2)(x-1)} = \frac{1}{(x+1)(x+2)}$$

4

【解答】 (1) $\frac{a+1}{a-1}$ (2) $\frac{x^2-1}{x^3}$

【解説】

(1) [方法1] (分母) $= a - \frac{2}{a+1} = \frac{a(a+1)-2}{a+1} = \frac{a^2+a-2}{a+1} = \frac{(a+2)(a-1)}{a+1}$

よって (与式) $= (a+2) \div \frac{(a+2)(a-1)}{a+1} = (a+2) \times \frac{a+1}{(a+2)(a-1)} = \frac{a+1}{a-1}$

[方法2] (与式) $= \frac{(a+1)(a+2)}{a(a+1)-2} = \frac{(a+1)(a+2)}{a^2+a-2} = \frac{(a+1)(a+2)}{(a-1)(a+2)} = \frac{a+1}{a-1}$

(2) (与式) $= \frac{1}{x + \frac{1}{x^2-1}} = \frac{1}{x + \frac{x}{x^2-1}} = \frac{1}{\frac{x(x^2-1)+x}{x^2-1}}$

$$= \frac{1}{\frac{x^3}{x^2-1}} = \frac{x^2-1}{x^3}$$

5

【解答】 (1) $a=2, b=4, c=1$ (2) $a=1, b=4, c=4$ (3) $a=1, b=-2, c=5$

【解説】

(1) 右辺を展開して整理すると $ax^2+bx=(c+1)x^2+4cx+4c-4$
 これが x についての恒等式であるとき、両辺の各項の係数を比較すると
 $a=c+1, b=4c, 0=4c-4$ これを解いて $a=2, b=4, c=1$

【別解】 与えられた等式に $x=-2, 0, 2$ を代入すると、それぞれ
 $4a-2b=0, 0=-4+4c, 4a+2b=16c$ これを解いて $a=2, b=4, c=1$
 このとき、与式は x についての恒等式である。

(2) 右辺を展開して整理すると $x^2=ax^2+(-4a+b)x+4a-2b+c$
 これが x についての恒等式であるとき、両辺の各項の係数を比較すると
 $1=a, 0=-4a+b, 0=4a-2b+c$ これを解いて $a=1, b=4, c=4$

【別解】 与えられた等式に $x=0, 1, 2$ を代入すると、それぞれ
 $0=4a-2b+c, 1=a-b+c, 4=c$ これを解いて $a=1, b=4, c=4$
 このとき、与式は x についての恒等式である。

(3) この等式が恒等式ならば、 $x=2, 1, -1$ を代入しても成り立つ。

これらの値を代入すると、それぞれ
 $3=3a, 4=-2b, 30=6c$
 よって $a=1, b=-2, c=5$

6

【解答】 $a=3, b=2$

【解説】

両辺に $(x+2)(x-1)$ を掛けて
 $5x+1=a(x-1)+b(x+2) \dots\dots \textcircled{1}$

【解法1 (係数比較法)】 右辺を整理して

$$5x+1=(a+b)x+(-a+2b)$$

両辺の同じ次数の項の係数が等しいから

$$5=a+b, \quad 1=-a+2b$$

これを解いて $a=3, b=2$

【解法2 (数値代入法)】 ①が x についての恒等式ならば

$$x=1 \text{ を代入して } 6=3b \quad \text{よって } b=2$$

$$x=-2 \text{ を代入して } -9=-3a \quad \text{よって } a=3$$

逆に、このとき①の右辺は

$$3(x-1)+2(x+2)=5x+1$$

となり、左辺と一致するから①は恒等式である。

よって $a=3, b=2$

7

【解答】 $x=-2, y=3$

【解説】

等式を k について整理すると $k(-2x-y-1)+x+2y-4=0$

これが k についての恒等式であるとき

$$2x+y+1=0, \quad x+2y-4=0$$

これを解いて $x=-2, y=3$

8

【解答】 $a=-11, b=2$, 商 $2x+6$

【解説】

求める商を $2x+c$ とすると、条件から

$$2x^3+ax+10=(x^2-3x+b)(2x+c)+3x-2$$

が x についての恒等式である。

右辺を展開して整理すると

$$2x^3+ax+10=2x^3+(c-6)x^2+(2b-3c+3)x+bc-2$$

両辺の同じ次数の項の係数は等しいから

$$0=c-6, \quad a=2b-3c+3, \quad 10=bc-2$$

これを解いて $c=6, b=2, a=-11$

よって $a=-11, b=2$ 商は $2x+6$

【別解】 右の計算から、割り算の余りは

$$(a-2b+18)x+10-6b$$

これが $3x-2$ に等しいから

$$a-2b+18=3, \quad 10-6b=-2$$

これを解いて $a=-11, b=2$

また、商は $2x+6$

$$\begin{array}{r} 2x+6 \\ 2x^3-6x^2+ \quad 2bx \\ \hline 6x^2+(a-2b)x+10 \\ 6x^2- \quad 18x+6b \\ \hline (a-2b+18)x+10-6b \end{array}$$

1

【解答】 (1) 商 $2x^2+x+2$, 余り 1 (2) 商 $x-4$, 余り $14x-2$

(3) 商 x^2-2x-1 , 余り 3 (4) 商 $2x^2+\frac{1}{2}x-\frac{7}{4}$, 余り $\frac{5}{4}x+\frac{23}{2}$

【解説】

(1)

$$\begin{array}{r} 2x^2+x+2 \\ x+3 \overline{) 2x^3+7x^2+5x+7} \\ \underline{2x^3+6x^2} \\ x^2+5x \\ \underline{x^2+3x} \\ 2x+7 \\ \underline{2x+6} \\ 1 \end{array} \quad \text{商 } 2x^2+x+2, \text{ 余り } 1$$

(2)

$$\begin{array}{r} x-4 \\ x^2+4x-1 \overline{) x^3-3x+2} \\ \underline{x^3+4x^2-x} \\ -4x^2-2x+2 \\ \underline{-4x^2-16x+4} \\ 14x-2 \end{array} \quad \text{商 } x-4, \text{ 余り } 14x-2$$

(3)

$$\begin{array}{r} x^2-2x-1 \\ 2x^2-3x+1 \overline{) 2x^4-7x^3+5x^2+x+2} \\ \underline{2x^4-3x^3+x^2} \\ -4x^3+4x^2+x \\ \underline{-4x^3+6x^2-2x} \\ -2x^2+3x+2 \\ \underline{-2x^2+3x-1} \\ 3 \end{array} \quad \text{商 } x^2-2x-1, \text{ 余り } 3$$

(4)

$$\begin{array}{r} 2x^2+\frac{1}{2}x-\frac{7}{4} \\ 2x^2-x+2 \overline{) 4x^4-x^3+4x+8} \\ \underline{4x^4-2x^3+4x^2} \\ x^3-4x^2+4x \\ \underline{x^3-\frac{1}{2}x^2+x} \\ -\frac{7}{2}x^2+3x+8 \\ \underline{-\frac{7}{2}x^2+\frac{7}{4}x-\frac{7}{2}} \\ \frac{5}{4}x+\frac{23}{2} \end{array} \quad \begin{array}{l} \text{商 } 2x^2+\frac{1}{2}x-\frac{7}{4}, \\ \text{余り } \frac{5}{4}x+\frac{23}{2} \end{array}$$

第2講 例題演習

2

【解答】 (1) $A=3x^3+14x^2+3x-1$ (2) $B=3x^2+x+2$

【解説】

(1) 条件から $A=(x^2+4x-3)(3x+2)+4x+5$

右辺を整理して $A=3x^3+14x^2+3x-1$

(2) 条件から $6x^4-7x^3+4x^2-3x+5=B \times (2x^2-3x+1)+2x+3$

よって $6x^4-7x^3+4x^2-5x+2=B \times (2x^2-3x+1)$

ゆえに、 $6x^4-7x^3+4x^2-5x+2$ は

$$2x^2-3x+1 \overline{) 6x^4-7x^3+4x^2-5x+2}$$

B である。

右の計算により $B=3x^2+x+2$

$$\begin{array}{r} 3x^2+x+2 \\ 2x^2-3x+1 \overline{) 6x^4-7x^3+4x^2-5x+2} \\ \underline{6x^4-9x^3+3x^2} \\ 2x^3+x^2-5x \\ \underline{2x^3-3x^2+x} \\ 4x^2-6x+2 \\ \underline{4x^2-6x+2} \\ 0 \end{array}$$

3

【解答】 (1) 2 (2) 1 (3) $\frac{x^2+x-1}{(x+1)(x+2)}$ (4) $\frac{4}{(x-1)(x-5)(x+3)}$

(5) $\frac{2(x+4)}{x(x+2)}$

【解説】

(1) (与式) $=\frac{x+(x-8)}{x-4}=\frac{2(x-4)}{x-4}=2$

(2) (与式) $=\frac{x}{x-a}+\frac{-a}{x-a}=\frac{x+(-a)}{x-a}=1$

(3) (与式) $=\frac{x(x+2)}{(x+1)(x+2)}-\frac{1 \cdot (x+1)}{(x+1)(x+2)}=\frac{(x^2+2x)-(x+1)}{(x+1)(x+2)}=\frac{x^2+x-1}{(x+1)(x+2)}$

(4) (与式) $=\frac{x+3}{(x-1)(x-5)(x+3)}-\frac{x-1}{(x-5)(x+3)(x-1)}=\frac{(x+3)-(x-1)}{(x-1)(x-5)(x+3)}$
 $=\frac{4}{(x-1)(x-5)(x+3)}$

(5) (与式) $=\frac{x+8}{(x+2)(x-1)}+\frac{x-4}{x(x-1)}=\frac{(x+8)x+(x-4)(x+2)}{x(x-1)(x+2)}$
 $=\frac{(x^2+8x)+(x^2-2x-8)}{x(x-1)(x+2)}=\frac{2x^2+6x-8}{x(x-1)(x+2)}=\frac{2(x^2+3x-4)}{x(x-1)(x+2)}$
 $=\frac{2(x-1)(x+4)}{x(x-1)(x+2)}=\frac{2(x+4)}{x(x+2)}$

4

【解答】 (1) $x+2$ (2) x

【解説】

(1) [方法1]

(分子) $=\frac{x(x-1)-6}{x-1}=\frac{x^2-x-6}{x-1}=\frac{(x+2)(x-3)}{x-1}$

(分母) $=\frac{(x-1)-2}{x-1}=\frac{x-3}{x-1}$ であるから

(与式) $=\frac{(x+2)(x-3)}{x-1} \div \frac{x-3}{x-1}=\frac{(x+2)(x-3)}{x-1} \times \frac{x-1}{x-3}=x+2$

[方法2]

(与式) $=\frac{x(x-1)-6}{(x-1)-2}=\frac{x^2-x-6}{x-3}=\frac{(x+2)(x-3)}{x-3}=x+2$

(2) (与式) $=\frac{1}{1-\frac{1}{1-x}}=\frac{1}{1+\frac{1-x}{x}}=\frac{x}{x+(1-x)}=x$

5

【解答】 (1) $a=-1, b=2$ (2) $a=1, b=1, c=-3$ (3) $a=3, b=7, c=35$

(4) $a=2, b=-1, c=1$ (5) $a=1, b=-3, c=3, d=-1$

【解説】

(1) 等式の右辺を x について整理すると $x=(a+b)x-(2a+b)$

両辺の同じ次数の項の係数を比較して $1=a+b, 0=2a+b$

これを解いて $a=-1, b=2$

【別解】 等式に $x=1, 2$ を代入すると、それぞれ

$1=-a, 2=b$ よって $a=-1, b=2$

逆に、このとき

(右辺) $=-(x-2)+2(x-1)=x$ (左辺)

となり、与式は x についての恒等式である。

したがって $a=-1, b=2$

(2) 等式の右辺を x について整理すると $x^2-x-3=ax^2+(-2a+b)x+a-b+c$

両辺の同じ次数の項の係数を比較して

$1=a, -1=-2a+b, -3=a-b+c$

これを解いて $a=1, b=1, c=-3$

【別解】 等式に $x=1, 0, 2$ を代入すると、それぞれ

$-3=c, -3=a-b+c, -1=a+b+c$

これを解いて $a=1, b=1, c=-3$

逆に、このとき

(右辺) $=(x-1)^2+(x-1)-3$
 $=x^2-2x+1+(x-1)-3=x^2-x-3$ (左辺)

となり、与式は x についての恒等式である。

したがって $a=1, b=1, c=-3$

(3) 等式の右辺を x について整理すると $12x^2+43x+c=4ax^2+(5a+4b)x+5b$

両辺の同じ次数の項の係数を比較して $12=4a, 43=5a+4b, c=5b$

これを解いて $a=3, b=7, c=35$

(4) 等式の左辺を x について整理すると $(a+b+c)x^2+(a-b)x-c=2x^2+3x-1$

両辺の同じ次数の項の係数を比較して $a+b+c=2, a-b=3, -c=-1$

これを解いて $a=2, b=-1, c=1$

【別解】 等式に $x=0, 1, -1$ を代入すると、それぞれ

$-c=-1, 2a=4, 2b=-2$

これを解いて $a=2, b=-1, c=1$

逆に、このとき

(左辺) $=2x(x+1)-x(x-1)+(x+1)(x-1)$
 $=2x^2+2x-x^2+x+x^2-1=2x^2+3x-1$ (右辺)

となり、与式は x についての恒等式である。

したがって $a=2, b=-1, c=1$

(5) 等式の右辺を x について整理すると

$x^3=ax^3+(3a+b)x^2+(3a+2b+c)x+a+b+c+d$

両辺の同じ次数の項の係数を比較して

$1=a, 0=3a+b, 0=3a+2b+c, 0=a+b+c+d$

これを解いて $a=1, b=-3, c=3, d=-1$

【別解】 等式に $x=-2, -1, 0, 1$ を代入すると、それぞれ

$-8=-a+b-c+d, -1=d, 0=a+b+c+d, 1=8a+4b+2c+d$

これを解いて $a=1, b=-3, c=3, d=-1$

逆に、このとき

(右辺) $=(x+1)^3-3(x+1)^2+3(x+1)-1$
 $=(x^3+3x^2+3x+1)-3(x^2+2x+1)+3(x+1)-1$
 $=x^3$ (左辺)

となり、与式は x についての恒等式である。

したがって $a=1, b=-3, c=3, d=-1$

6

【解答】 (1) $a=1, b=2$ (2) $a=3, b=1, c=-1$

【解説】

(1) 両辺に $(x-1)(x+1)$ を掛けて

$3x-1=a(x+1)+b(x-1) \dots\dots \textcircled{1}$

[解法1] (係数比較法) 右辺を展開して整理すると

$3x-1=(a+b)x+a-b$

両辺の同じ次数の項の係数を比較して

$3=a+b, -1=a-b$

この連立方程式を解いて $a=1, b=2$

[解法2] (数値代入法) $\textcircled{1}$ が x についての恒等式ならば

$x=1$ を代入して $2=2a$ よって $a=1$

$x=-1$ を代入して $-4=-2b$ よって $b=2$

逆に、このとき $\textcircled{1}$ の右辺は

$(x+1)+2(x-1)=3x-1$

となり、左辺と一致するから $\textcircled{1}$ は恒等式である。

よって $a=1, b=2$

(2) 両辺に $(x+1)^2(x-1)$ を掛けて

$x-5=a(x-1)+b(x+1)(x-1)+c(x+1)^2 \dots\dots \textcircled{1}$

[解法1] (係数比較法) 右辺を展開して整理すると

$x-5=(b+c)x^2+(a+2c)x+(-a-b+c)$

両辺の同じ次数の項の係数を比較して

$0=b+c, 1=a+2c, -5=-a-b+c$

この連立方程式を解いて $a=3, b=1, c=-1$

[解法2] (数値代入法) $\textcircled{1}$ が x についての恒等式ならば

$x=1$ を代入して $-4=4c$

$x=-1$ を代入して $-6=-2a$

$x=0$ を代入して $-5=-a-b+c$

これを解いて $a=3, b=1, c=-1$

逆に、このとき $\textcircled{1}$ の右辺は

$3(x-1)+(x+1)(x-1)-(x+1)^2=x-5$

となり、左辺と一致するから①は恒等式である。

よって $a=3, b=1, c=-1$

7

解答 $x=-1, y=-2$

解説

等式を k について整理すると

$$(x-2y-3)k+(x-3y-5)=0$$

これが k についての恒等式であるとき

$$x-2y-3=0, x-3y-5=0$$

これを解いて $x=-1, y=-2$

8

解答 (1) $a=-3, b=4$, 商は $2x-1$ (2) $a=6, b=24$, 商は $x+8$

解説

(1) 商は1次式になるから $cx+d$ とおくと

$$2x^3+ax^2+bx+2=(x^2-x+1)(cx+d)+x+3$$

この等式は x についての恒等式である。

右辺を x について整理すると

$$2x^3+ax^2+bx+2=cx^3+(-c+d)x^2+(c-d+1)x+(d+3)$$

両辺の同じ次数の項の係数を比較して

$$2=c, a=-c+d, b=c-d+1, 2=d+3$$

これを解いて $a=-3, b=4, c=2, d=-1$

よって $a=-3, b=4$, 商は $2x-1$

(2) 商は1次式になるから $cx+d$ とおくと

$$x^3+ax^2-13x+b=(x^2-2x+3)(cx+d)$$

この等式は x についての恒等式である。

右辺を x について整理すると

$$x^3+ax^2-13x+b=cx^3+(-2c+d)x^2+(3c-2d)x+3d$$

両辺の同じ次数の項の係数を比較して

$$1=c, a=-2c+d, -13=3c-2d, b=3d$$

これを解いて $a=6, b=24, c=1, d=8$

よって $a=6, b=24$, 商は $x+8$

1

解答 (1) 商 $2x+3y+4$, 余り $-y^2+11y+8$

(2) 商 $2y+3x+12$, 余り $-x^2-5x+32$

解説

$2x^2+5xy+2y^2-2x+6y-4$ を x について整理すると

$$2x^2+(5y-2)x+(2y^2+6y-4)$$

y について整理すると $2y^2+(5x+6)y+(2x^2-2x-4)$

(1)

$$\begin{array}{r} 2x+(3y+4) \\ x+(y-3) \overline{) 2x^2+(5y-2)x+(2y^2+6y-4)} \\ \underline{2x^2+(2y-6)x} \\ (3y+4)x+(2y^2+6y-4) \\ \underline{(3y+4)x+(3y^2-5y-12)} \\ -y^2+11y+8 \end{array}$$

商 $2x+3y+4$,
余り $-y^2+11y+8$

(2)

$$\begin{array}{r} 2y+(3x+12) \\ y+(x-3) \overline{) 2y^2+(5x+6)y+(2x^2-2x-4)} \\ \underline{2y^2+(2x-6)y} \\ (3x+12)y+(2x^2-2x-4) \\ \underline{(3x+12)y+(3x^2+3x-36)} \\ -x^2-5x+32 \end{array}$$

商 $2y+3x+12$,
余り $-x^2-5x+32$

2

解答 (1) $\frac{x^2-3}{x-3}$ (2) $-4x^2+7x$

解説

$$(1) \frac{x^4-7x^2+12}{x^2-x-6} \times \frac{2x^2+7x+3}{2x+1} = \frac{(x^2-3)(x+2)(x-2)}{(x+2)(x-3)} \times \frac{(2x+1)(x+3)}{2x+1} = \frac{(x^2-3)(x-2)(x+3)}{x-3}$$

$$\text{よって (与式)} = \frac{(x^2-3)(x-2)(x+3)}{(x-2)(x+3)} = \frac{x^2-3}{x-3}$$

$$\begin{aligned} (2) \text{ (与式)} &= \frac{3x-5}{1-\frac{x+1}{(x+1)-1}} - \frac{x(2x-3)}{1+\frac{x-1}{(x-1)-1}} \\ &= \frac{3x-5}{1-\frac{x+1}{x}} - \frac{x(2x-3)}{1+\frac{x-1}{x-2}} = \frac{(3x-5)x}{x-(x+1)} - \frac{x(2x-3)(x-2)}{(x-2)+(x-1)} \\ &= -x(3x-5) - \frac{x(2x-3)(x-2)}{2x-3} = -3x^2+5x-x(x-2) \\ &= -3x^2+5x-x^2+2x = -4x^2+7x \end{aligned}$$

3

解答 $a=2, b=2, c=1$

解説

右辺を展開して整理すると

$$2x^2-xy-3y^2+5x-5y+a=2x^2-xy-3y^2+(2b+c)x+(-3b+c)y+bc$$

この等式が x, y についての恒等式となるのは、両辺の各項の係数が等しいときであるから

$$2b+c=5 \quad \dots\dots ①$$

$$-3b+c=-5 \quad \dots\dots ②$$

$$bc=a \quad \dots\dots ③$$

①, ② から $b=2, c=1$

これを ③ に代入して $a=2$

以上から $a=2, b=2, c=1$

1

【解答】 $p = -4, q = 12, r = 6$

【解説】

$2x - 4y + 5z = 3$ …… ①, $3x + y + 4z = 1$ …… ② とする。

①×4-②×5 から $-7x - 21y = 7$

したがって $x = -3y - 1$ …… ③

①×3-②×2 から $-14y + 7z = 7$

したがって $z = 2y + 1$ …… ④

③, ④ を $px^2 + qy^2 + rz^2 = 2$ に代入すると

$$p(-3y-1)^2 + qy^2 + r(2y+1)^2 = 2$$

整理すると $(9p+q+4r)y^2 + (6p+4r)y + p+r-2 = 0$

これが y についての恒等式であるから

$$9p+q+4r=0, 6p+4r=0, p+r-2=0$$

この連立方程式を解いて $p = -4, q = 12, r = 6$

2

【解答】 (1) $(a, b) = (6, 6), (-6, -6)$ (2) $a = 7, b = 13$

【解説】

(1) $x^4 + ax^3 + 11x^2 + bx + 1 = (x^2 + px + q)^2$ とおける。

右辺を展開すると

$$x^4 + ax^3 + 11x^2 + bx + 1 = x^4 + 2px^3 + (p^2 + 2q)x^2 + 2pqx + q^2$$

両辺の係数を比較すると

$$a = 2p \dots\dots ①, 11 = p^2 + 2q \dots\dots ②, b = 2pq \dots\dots ③, 1 = q^2 \dots\dots ④$$

④ から $q = \pm 1$

[1] $q = 1$ のとき

② に代入して $11 = p^2 + 2$ よって $p = \pm 3$

(i) $p = 3$ のとき ① から $a = 6$, ③ から $b = 6$

これは a, b が整数であるから適する。

(ii) $p = -3$ のとき ① から $a = -6$, ③ から $b = -6$

これは a, b が整数であるから適する。

[2] $q = -1$ のとき

② に代入して $11 = p^2 - 2$ よって $p = \pm\sqrt{13}$

①, ③ に代入すると, a, b が整数にならないから不適。

[1], [2] から, 求める a, b の値は $(a, b) = (6, 6), (-6, -6)$

(2) 条件から $x^4 - x^3 - ax^2 + bx - 6 = (x-1)^2(x^2 + cx + d)$ と表される。

右辺を展開すると 右辺 $= x^4 + (c-2)x^3 + (-2c+d+1)x^2 + (c-2d)x + d$

よって $-1 = c - 2, -a = -2c + d + 1, b = c - 2d, -6 = d$

これを解いて $c = 1, d = -6, a = 7, b = 13$ 答

3

【解答】 (1) $f(0) = f(1) = f(2) = 0$ (2) 3 (3) $f(x) = x^3 - 3x^2 + 2x$

【解説】

(1) 与式に $x = 0$ を代入すると $f(0) = 0$

$x = -1$ を代入すると $f(1) = -f(0)$

$x = 1$ を代入すると $f(1) = f(2)$

よって $f(0) = f(1) = f(2) = 0$

(2) $f(x)$ の次数を n とする。

(1) より, $f(x)$ は異なる 3 個の x の値に対して 0 となるが, 恒等的に 0 ではない。

よって, 恒等式の両辺の次数を比較すると

$$2n = n + 3 \quad \text{ゆえに} \quad n = 3$$

(3) (2) の結果から, $f(x) = ax^3 + bx^2 + cx + d$ とおける。

$f(0) = f(1) = f(2) = 0$ であるから

$$d = 0, a + b + c + d = 0, 8a + 4b + 2c + d = 0$$

よって $b = -3a, c = 2a, d = 0$

ゆえに $f(x) = ax^3 - 3ax^2 + 2ax = ax(x^2 - 3x + 2) = ax(x-1)(x-2)$

$f(x^2) = ax^2(x^2 - 1)(x^2 - 2), f(x+1) = a(x+1)x(x-1)$ を恒等式に代入すると

$$ax^2(x^2 - 1)(x^2 - 2) = x^3 \cdot a(x+1)x(x-1) - 2x^4 + 2x^2$$

x^2 の項の係数を比較すると $2a = 2$ よって $a = 1$

ゆえに $f(x) = x(x-1)(x-2) = x^3 - 3x^2 + 2x$

1

【解答】 略

【解説】

(左辺) $= (a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3) - (a^3 - 3a^2b + 3ab^2 - b^3) = 6a^2b + 2b^3$

(右辺) $= 6a^2b + 2b^3$

よって $(a+b)^3 - (a-b)^3 = 2b(3a^2 + b^2)$

【別解】 (左辺) $= (a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3) - (a^3 - 3a^2b + 3ab^2 - b^3)$

$$= 6a^2b + 2b^3 = 2b(3a^2 + b^2) = \text{(右辺)}$$

よって $(a+b)^3 - (a-b)^3 = 2b(3a^2 + b^2)$

2

【解答】 (1) 略 (2) 略 (3) 略

【解説】

(1) $a + b = 1$ より, $b = 1 - a$ であるから

$$\text{(左辺)} = a^2 + (1-a)^2 + 1 = a^2 + 1 - 2a + a^2 + 1 = 2a^2 - 2a + 2 = 2(a^2 - a + 1)$$

$$\text{(右辺)} = 2\{a + (1-a) - a(1-a)\} = 2\{a + 1 - a - a + a^2\} = 2(a^2 - a + 1)$$

よって, 等式は成り立つ。

【別解】 $a + b = 1$ であるから

$$\text{(左辺)} = (a+b)^2 - 2ab + 1 = 1^2 - 2ab + 1 = 2 - 2ab = 2(1 - ab)$$

$$\text{(右辺)} = 2(1 - ab)$$

よって, 等式は成り立つ。

(2) $a + b + c = 0$ から $c = -(a+b)$

$$\text{(左辺)} = b\{-(a+b)\}[b-(a+b)] - (a+b)a\{-(a+b)+a\} + ab(a+b)$$

$$= ab(a+b) + ab(a+b) + ab(a+b) = 3ab(a+b)$$

$$\text{(右辺)} = -3ab\{-(a+b)\} = 3ab(a+b)$$

よって $bc(b+c) + ca(c+a) + ab(a+b) = -3abc$

【別解】 1 (左辺) $-$ (右辺) $= bc(b+c) + ca(c+a) + ab(a+b) + 3abc$

$$= [bc(b+c) + abc] + [ca(c+a) + abc] + [ab(a+b) + abc]$$

$$= bc(a+b+c) + ca(a+b+c) + ab(a+b+c)$$

$$= (bc + ca + ab)(a+b+c)$$

$a + b + c = 0$ であるから (左辺) $-$ (右辺) $= 0$

よって $bc(b+c) + ca(c+a) + ab(a+b) = -3abc$

【別解】 2 $b + c = -a, c + a = -b, a + b = -c$ であるから

$$\text{(左辺)} = bc(-a) + ca(-b) + ab(-c) = -3abc = \text{(右辺)}$$

よって $bc(b+c) + ca(c+a) + ab(a+b) = -3abc$

(3) $a + b + c = 0$ から $b + c = -a, c + a = -b, a + b = -c$

$$\text{(左辺)} = a^2(-a) + b^2(-b) + c^2(-c) + 3abc$$

$$= -a^3 - b^3 - c^3 + 3abc$$

$$= -(a+b+c)(a^2 + b^2 + c^2 - bc - ca - ab)$$

$$= -0 \cdot (a^2 + b^2 + c^2 - bc - ca - ab) = 0$$

3

【解答】 (1) 略 (2) 略

【解説】

$$\frac{a}{b} = \frac{c}{d} = k \text{ とおくと} \quad a = bk, c = dk$$

$$(1) \quad \text{(左辺)} = (bk + b)(dk - d) = bd(k+1)(k-1)$$

$$(右辺) = (bk - b)(dk + d) = bd(k - 1)(k + 1)$$

よって $(a + b)(c - d) = (a - b)(c + d)$

(2) (左辺) $= \frac{b^2k + d^2k}{b^2k - d^2k} = \frac{k(b^2 + d^2)}{k(b^2 - d^2)} = \frac{b^2 + d^2}{b^2 - d^2}$

(右辺) $= \frac{b^2k^2 + d^2k^2}{b^2k^2 - d^2k^2} = \frac{k^2(b^2 + d^2)}{k^2(b^2 - d^2)} = \frac{b^2 + d^2}{b^2 - d^2}$

よって $\frac{ab + cd}{ab - cd} = \frac{a^2 + c^2}{a^2 - c^2}$

4

解答 略

解説

$$\begin{aligned} (a-2)(b-2)(c-2) &= \{ab-2(a+b)+4\}(c-2) \\ &= abc - 2ab - 2(a+b)c + 4(a+b) + 4c - 8 \\ &= abc - 2(ab+bc+ca) + 4(a+b+c) - 8 \\ &= abc - abc + 4 \cdot 2 - 8 = 0 \end{aligned}$$

よって $a-2=0$ または $b-2=0$ または $c-2=0$
したがって、 a, b, c のうち少なくとも1つは2である。

1

解答 (1) 略 (2) 略

解説

(1) (右辺) $= (x^5 + x^4 + x^3 + x^2 + x) - (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1)$
 $= x^5 - 1 = (左辺)$

よって $x^5 - 1 = (x-1)(x^4 + x^3 + x^2 + x + 1)$

(2) (左辺) $= a^2c^2 + a^2d^2 + b^2c^2 + b^2d^2$

(右辺) $= a^2c^2 + 2acbd + b^2d^2 + a^2d^2 - 2adb c + b^2c^2$
 $= a^2c^2 + a^2d^2 + b^2c^2 + b^2d^2$

よって $(a^2 + b^2)(c^2 + d^2) = (ac + bd)^2 + (ad - bc)^2$

別解 (右辺) $= a^2c^2 + 2acbd + b^2d^2 + a^2d^2 - 2adb c + b^2c^2$
 $= a^2c^2 + a^2d^2 + b^2c^2 + b^2d^2$
 $= a^2(c^2 + d^2) + b^2(c^2 + d^2)$
 $= (a^2 + b^2)(c^2 + d^2) = (左辺)$

よって $(a^2 + b^2)(c^2 + d^2) = (ac + bd)^2 + (ad - bc)^2$

2

解答 (1) 略 (2) 略

解説

(1) $a + b + c = 0$ から $c = -(a + b)$

$$\begin{aligned} (左辺) &= a^3\{b + (a + b)\} + b^3\{-(a + b) - a\} + \{-(a + b)\}^3(a - b) \\ &= a^3(a + 2b) + b^3(-2a - b) - (a + b)^3(a - b) \\ &= a^4 + 2a^3b - 2ab^3 - b^4 - (a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3)(a - b) \\ &= a^4 + 2a^3b - 2ab^3 - b^4 - (a^4 + 2a^3b - 2ab^3 - b^4) \\ &= 0 = (右辺) \end{aligned}$$

よって $a^3(b - c) + b^3(c - a) + c^3(a - b) = 0$

別解 (左辺) $= (b - c)a^3 - (b^3 - c^3)a + b^3c - bc^3$
 $= (b - c)a^3 - (b - c)(b^2 + bc + c^2)a + bc(b + c)(b - c)$
 $= (b - c)\{a^3 - (b^2 + bc + c^2)a + bc(b + c)\}$

ここで

$$\begin{aligned} a^3 - (b^2 + bc + c^2)a + bc(b + c) &= (c - a)b^2 + (c^2 - ca)b + a^3 - c^2a \\ &= (c - a)b^2 + c(c - a)b - a(c + a)(c - a) \\ &= (c - a)\{b^2 + cb - a(c + a)\} \\ &= (c - a)\{b + (c + a)\}(b - a) \\ &= -(a - b)(c - a)(a + b + c) \end{aligned}$$

であるから

(左辺) $= -(a - b)(b - c)(c - a)(a + b + c)$

よって、 $a + b + c = 0$ のとき (左辺) $= 0$

ゆえに $a^3(b - c) + b^3(c - a) + c^3(a - b) = 0$

(2) $a + b + c = 0$ から $c = -(a + b)$

(左辺) $= \{b - (a + b)\}^2 + \{-(a + b) + a\}^2 + (a + b)^2$
 $= a^2 + b^2 + (a^2 + 2ab + b^2) = 2(a^2 + ab + b^2)$

(右辺) $= -2\{-b(a + b) - (a + b)a + ab\}$
 $= -2(-ab - b^2 - a^2 - ab + ab) = 2(a^2 + ab + b^2)$

よって $(b + c)^2 + (c + a)^2 + (a + b)^2 = -2(bc + ca + ab)$

別解 $b + c = -a, c + a = -b, a + b = -c$ であるから

(左辺) $-(右辺) = (-a)^2 + (-b)^2 + (-c)^2 + 2(bc + ca + ab)$
 $= a^2 + b^2 + c^2 + 2ab + 2bc + 2ca$
 $= (a + b + c)^2 = 0 = 0$

よって $(b + c)^2 + (c + a)^2 + (a + b)^2 = -2(bc + ca + ab)$

3

解答 (1) 略 (2) 略

解説

(1) $\frac{a}{b} = \frac{c}{d} = k$ とおくと $a = bk, c = dk$

[1] $\frac{a-b}{b} = \frac{bk-b}{b} = k-1, \frac{c-d}{d} = \frac{dk-d}{d} = k-1$

よって $\frac{a-b}{b} = \frac{c-d}{d}$

[2] $\frac{ab}{a^2 + b^2} = \frac{b^2k}{b^2k^2 + b^2} = \frac{k}{k^2 + 1}, \frac{cd}{c^2 + d^2} = \frac{d^2k}{d^2k^2 + d^2} = \frac{k}{k^2 + 1}$

よって $\frac{ab}{a^2 + b^2} = \frac{cd}{c^2 + d^2}$

(2) $\frac{x}{a} = \frac{y}{b} = \frac{z}{c} = k$ とおくと $x = ak, y = bk, z = ck$

[1] $\frac{x+y+z}{a+b+c} = \frac{ak+bk+ck}{a+b+c} = k, \frac{x}{a} = \frac{ak}{a} = k$

よって $\frac{x+y+z}{a+b+c} = \frac{x}{a}$

[2] $\frac{x^2 + y^2 + z^2}{a^2 + b^2 + c^2} = \frac{a^2k^2 + b^2k^2 + c^2k^2}{a^2 + b^2 + c^2} = k^2$

$\frac{xy + yz + zx}{ab + bc + ca} = \frac{abk^2 + bck^2 + cak^2}{ab + bc + ca} = k^2$

よって $\frac{x^2 + y^2 + z^2}{a^2 + b^2 + c^2} = \frac{xy + yz + zx}{ab + bc + ca}$

4

解答 略

解説

$(x - a)(y - a)(z - a) = xyz - (yz + zx + xy)a + (x + y + z)a^2 - a^3$

よって、 $x + y + z = a, a(yz + zx + xy) = xyz$ が成り立つとき

$(x - a)(y - a)(z - a) = xyz - xyz + a \cdot a^2 - a^3 = 0$

したがって、 $x - a = 0$ または $y - a = 0$ または $z - a = 0$ であるから、
 x, y, z のうち少なくとも1つは a である。

1

解答 略

解説

$a+b+c=0$ より, $c=-(a+b)$ であるから

$$\begin{aligned} \text{(左辺)} &= \frac{a^2}{(a+b)(-b)} + \frac{b^2}{(-a)(b+a)} + \frac{(a+b)^2}{(-b)(-a)} \\ &= \frac{-a^3-b^3+(a+b)^3}{ab(a+b)} = \frac{3a^2b+3ab^2}{ab(a+b)} = \frac{3ab(a+b)}{ab(a+b)} = 3 \end{aligned}$$

したがって, 等式は証明された。

別解 $a+b+c=0$ より,

$a+b=-c, a+c=-b, b+c=-a$ であるから

$$\begin{aligned} \text{(左辺)} &= \frac{a^2}{(-c)(-b)} + \frac{b^2}{(-a)(-c)} + \frac{c^2}{(-b)(-a)} \\ &= \frac{a^3+b^3+c^3}{abc} = \frac{a^3+b^3+c^3-3abc+3abc}{abc} \\ &= \frac{(a+b+c)(a^2+b^2+c^2-ab-bc-ca)+3abc}{abc} \\ &= \frac{3abc}{abc} = 3 \end{aligned}$$

したがって, 等式は証明された。

2

解答 $\frac{2}{11}$

解説

$$\frac{x+y}{6} = \frac{y+z}{7} = \frac{z+x}{8} = k \text{ とおくと, } k \neq 0 \text{ で}$$

$$\begin{aligned} x+y &= 6k & \dots\dots ① \\ y+z &= 7k & \dots\dots ② \\ z+x &= 8k & \dots\dots ③ \end{aligned}$$

$$\text{辺々加えて } 2(x+y+z) = 21k \quad \text{よって } x+y+z = \frac{21}{2}k \quad \dots\dots ④$$

$$④-②, ④-③, ④-① \text{ から } x = \frac{7}{2}k, y = \frac{5}{2}k, z = \frac{9}{2}k$$

$$\begin{aligned} \text{したがって } \frac{x^2-y^2}{x^2+xz+yz-y^2} &= \frac{x^2-y^2}{(x^2-y^2)+(xz+yz)} \\ &= \frac{(x+y)(x-y)}{(x+y)(x-y)+(x+y)z} = \frac{x-y}{x-y+z} \\ &= \frac{\frac{7}{2}k - \frac{5}{2}k}{\frac{7}{2}k - \frac{5}{2}k + \frac{9}{2}k} = \frac{k}{\frac{11}{2}k} = \frac{2}{11} \end{aligned}$$

3

解答 $a+b+c \neq 0$ のとき 2, $a+b+c=0$ のとき -1

解説

$$\frac{b+c}{a} = \frac{c+a}{b} = \frac{a+b}{c} = k \text{ とおくと}$$

$$b+c = ak \quad \dots\dots ①, c+a = bk \quad \dots\dots ②, a+b = ck \quad \dots\dots ③$$

$$①+②+③ \text{ から } 2(a+b+c) = (a+b+c)k$$

1] $a+b+c \neq 0$ のとき $k=2$

このとき, ①-② から $a=b$, ②-③ から $b=c$
すなわち, $a=b=c$ が得られる。

2] $a+b+c=0$ のとき $b+c=-a$

$$\text{したがって } k = \frac{b+c}{a} = \frac{-a}{a} = -1$$

よって $a+b+c \neq 0$ のとき 2, $a+b+c=0$ のとき -1

1

解答 略

解説

$$\frac{1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{1}{z} = \frac{1}{x+y+z} \text{ から } \frac{yz+zx+xy}{xyz} = \frac{1}{x+y+z}$$

$$\text{よって } (x+y+z)(yz+zx+xy) = xyz$$

$$\text{ゆえに } \{x+(y+z)\}[(y+z)x+yz] - xyz = 0$$

$$(y+z)x^2 + (y+z)^2x + yz(y+z) = 0$$

$$(y+z)\{x^2 + (y+z)x + yz\} = 0$$

$$(y+z)(x+y)(x+z) = 0$$

よって $y+z=0$ または $x+y=0$ または $x+z=0$

したがって, x, y, z のうちどれか2つの和は0である。

2] [大阪市立大]

解答 略

解説

$$A = (\alpha-1)^2 + (\beta-1)^2 + (\gamma-1)^2 \text{ とおくと}$$

$$A = (\alpha^2 - 2\alpha + 1) + (\beta^2 - 2\beta + 1) + (\gamma^2 - 2\gamma + 1)$$

$$= \alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2 - 2(\alpha + \beta + \gamma) + 3$$

$$= (\alpha + \beta + \gamma)^2 - 2(\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha) - 2(\alpha + \beta + \gamma) + 3$$

これに条件式を代入すると

$$A = 3^2 - 2 \cdot 3 - 2 \cdot 3 + 3 = 0$$

すなわち $(\alpha-1)^2 + (\beta-1)^2 + (\gamma-1)^2 = 0$

よって, α, β, γ はすべて1である。

3

解答 略

解説

異なる3つの値 x_1, x_2, x_3 に対して

$$ax_1^2 + bx_1 + c = 0 \quad \dots\dots ①, ax_2^2 + bx_2 + c = 0 \quad \dots\dots ②,$$

$$ax_3^2 + bx_3 + c = 0 \quad \dots\dots ③$$

が成り立つとする。

$$①-② \text{ から } (x_1-x_2)\{a(x_1+x_2)+b\} = 0$$

$$①-③ \text{ から } (x_1-x_3)\{a(x_1+x_3)+b\} = 0$$

$x_1 \neq x_2, x_1 \neq x_3$ であるから

$$a(x_1+x_2)+b = 0 \quad \dots\dots ④, a(x_1+x_3)+b = 0 \quad \dots\dots ⑤$$

$$④-⑤ \text{ から } a(x_2-x_3) = 0 \quad x_2 \neq x_3 \text{ であるから } a = 0$$

$$a = 0 \text{ を } ④ \text{ に代入して } b = 0$$

$$a = b = 0 \text{ を } ① \text{ に代入して } c = 0$$

第4講 例題

1

【解答】(1) 略 (2) 略

【解説】

(1) $x > 3, y > 4$ から $x - 3 > 0, y - 4 > 0$

$$\begin{aligned} \text{よって } xy + 12 - (4x + 3y) &= x(y - 4) - 3(y - 4) \\ &= (x - 3)(y - 4) > 0 \end{aligned}$$

ゆえに $xy + 12 > 4x + 3y$

$$(2) \frac{a}{1+a} - \frac{b}{1+b} = \frac{a(1+b) - b(1+a)}{(1+a)(1+b)} = \frac{a-b}{(1+a)(1+b)}$$

$a > b > 0$ より, $a - b > 0, 1 + a > 0, 1 + b > 0$ であるから $\frac{a-b}{(1+a)(1+b)} > 0$

$$\text{したがって } \frac{a}{1+a} > \frac{b}{1+b}$$

2

【解答】(1) 略 (2) 証明は略, 等号成立は $x = y = -2$ のとき (3) 略

【解説】

$$(1) (a^2 + 11) - 6a = a^2 - 6a + 11 \\ = (a^2 - 6a + 9) + 11 - 9 = (a - 3)^2 + 2 > 0$$

よって $a^2 + 11 > 6a$

$$(2) x^2 + 2y^2 - (2xy - 4y - 4) = x^2 - 2xy + 2y^2 + 4y + 4 \\ = (x^2 - 2xy + y^2) - y^2 + 2y^2 + 4y + 4 \\ = (x - y)^2 + y^2 + 4y + 4 = (x - y)^2 + (y + 2)^2 \geq 0$$

等号が成り立つのは, $x - y = 0$ かつ $y + 2 = 0$ すなわち $x = y = -2$ のときである。

$$(3) x^2 - xy + y^2 + x - 2y + 2 = x^2 - (y - 1)x + y^2 - 2y + 2 \\ = \left[x^2 - 2 \cdot \frac{y-1}{2} x + \left(\frac{y-1}{2} \right)^2 \right] - \left(\frac{y-1}{2} \right)^2 + y^2 - 2y + 2 \\ = \left(x - \frac{y-1}{2} \right)^2 + \frac{3}{4} y^2 - \frac{3}{2} y + \frac{7}{4} \\ = \left(x - \frac{y-1}{2} \right)^2 + \frac{3}{4} (y-1)^2 + 1 > 0$$

3

【解答】(1) 証明略, $a = 0$ または $b = 0$ (2) 証明略, $a = b$ (3) 証明略, $ab \geq 0$

【解説】

$$(1) (5\sqrt{a} + 3\sqrt{b})^2 - (\sqrt{25a + 9b})^2 = (25a + 30\sqrt{a}\sqrt{b} + 9b) - (25a + 9b) \\ = 30\sqrt{a}\sqrt{b} = 30\sqrt{ab} \geq 0 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

よって $(5\sqrt{a} + 3\sqrt{b})^2 \geq (\sqrt{25a + 9b})^2$

$5\sqrt{a} + 3\sqrt{b} \geq 0, \sqrt{25a + 9b} \geq 0$ であるから

$$5\sqrt{a} + 3\sqrt{b} \geq \sqrt{25a + 9b}$$

等号が成り立つのは, ① から $a = 0$ または $b = 0$ のときである。

$$(2) \{\sqrt{2(a+b)}\}^2 - (\sqrt{a} + \sqrt{b})^2 = 2(a+b) - (a + 2\sqrt{ab} + b) \\ = a - 2\sqrt{ab} + b \\ = (\sqrt{a} - \sqrt{b})^2 \geq 0 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

よって $\{\sqrt{2(a+b)}\}^2 \geq (\sqrt{a} + \sqrt{b})^2$

$\sqrt{2(a+b)} \geq 0, \sqrt{a} + \sqrt{b} \geq 0$ であるから $\sqrt{2(a+b)} \geq \sqrt{a} + \sqrt{b}$

等号が成り立つのは, ① から $a = b$ のときである。

$$(3) (|a| + |b|)^2 - |a + b|^2 = (|a|^2 + 2|a||b| + |b|^2) - (a + b)^2 \\ = a^2 + 2|ab| + b^2 - (a^2 + 2ab + b^2) \\ = 2(|ab| - ab) \geq 0 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

よって $|a + b|^2 \leq (|a| + |b|)^2$

$|a + b| \geq 0, |a| + |b| \geq 0$ であるから $|a + b| \leq |a| + |b|$

等号が成り立つのは, $|ab| - ab = 0$

すなわち $|ab| = ab$ より $ab \geq 0$ のとき

【別解】 $-|a| \leq a \leq |a|, -|b| \leq b \leq |b|$ であるから

辺々を加えて $-(|a| + |b|) \leq a + b \leq |a| + |b|$

$|a| + |b| \geq 0$ であるから $|a + b| \leq |a| + |b|$

4

【解答】(1) 証明は略, 等号成立は $a = \frac{1}{6}$ のとき

(2) 証明は略, 等号成立は $ab = 4$ のとき

【解説】

相加平均と相乗平均の大小関係を利用する。

(1) $9a > 0, \frac{1}{4a} > 0$ であるから

$$9a + \frac{1}{4a} \geq 2\sqrt{9a \cdot \frac{1}{4a}} = 2\sqrt{\frac{9}{4}} = 3$$

等号が成り立つのは, $9a = \frac{1}{4a}$ すなわち $a^2 = \frac{1}{36}$ のときであるが, $a > 0$ であるから

$a = \frac{1}{6}$ のときである。

$$(2) \left(a + \frac{1}{b}\right) \left(b + \frac{16}{a}\right) = ab + 16 + 1 + \frac{16}{ab} = ab + \frac{16}{ab} + 17$$

$a > 0, b > 0$ より, $ab > 0, \frac{16}{ab} > 0$ であるから

$$ab + \frac{16}{ab} \geq 2\sqrt{ab \cdot \frac{16}{ab}} = 8$$

よって $\left(a + \frac{1}{b}\right) \left(b + \frac{16}{a}\right) \geq 8 + 17 = 25$

等号が成り立つのは, $ab = \frac{16}{ab}$ すなわち $(ab)^2 = 16$ のときであるが, $ab > 0$ であるから $ab = 4$ のときである。

5

【解答】 $a = \sqrt{2} - 1$ のとき最小値 $2\sqrt{2} - 3$

【解説】

$$a - 2 + \frac{2}{a+1} = a + 1 + \frac{2}{a+1} - 3$$

$a > 0$ より, $a + 1 > 0$ であるから, (相加平均) \geq (相乗平均) により

$$a + 1 + \frac{2}{a+1} \geq 2\sqrt{(a+1) \cdot \frac{2}{a+1}} = 2\sqrt{2}$$

よって $a - 2 + \frac{2}{a+1} \geq 2\sqrt{2} - 3$

等号が成り立つのは, $a + 1 = \frac{2}{a+1}$ のときである。

このとき $(a+1)^2 = 2$

$a + 1 > 0$ であるから $a = \sqrt{2} - 1$

したがって $a = \sqrt{2} - 1$ のとき最小値 $2\sqrt{2} - 3$

第4講 例題演習

1

【解答】 (1) 略 (2) 略 (3) 略

【解説】

(1) $x > -3, y > 2$ より $x+3 > 0, y-2 > 0$

よって $xy-6-(2x-3y)=x(y-2)+3(y-2)$
 $= (x+3)(y-2) > 0$

ゆえに $xy-6 > 2x-3y$

(2) $\frac{b+2}{a+1} - \frac{b}{a} = \frac{a(b+2)-b(a+1)}{a(a+1)} = \frac{2a-b}{a(a+1)}$

$2a > b > 0$ より, $2a-b > 0$ であるから $\frac{2a-b}{a(a+1)} > 0$

したがって $\frac{b}{a} < \frac{b+2}{a+1}$

(3) $xy+yz-(zx+y^2)=x(y-z)-y(y-z)=(x-y)(y-z)$

$x \geq y \geq z$ より, $x-y \geq 0, y-z \geq 0$ であるから $(x-y)(y-z) \geq 0$

したがって $xy+yz \geq zx+y^2$

【参考】 等号が成り立つのは $x-y=0$ または $y-z=0$

すなわち, $x=y$ または $y=z$ のときである。

2

【解答】 (1) 証明は略, 等号成立は $x=2$ のとき

(2) 証明は略, 等号成立は $x=y=0$ のとき

(3) 証明は略, 等号成立は $x=y=0$ のとき

(4) 証明略, 等号が成り立つのは $x=\frac{3}{2}, y=\frac{1}{2}$ のとき

【解説】

(1) $(x^2-x+4)-3x=x^2-4x+4=(x-2)^2 \geq 0$

よって $x^2-x+4 \geq 3x$

等号が成り立つのは, $x-2=0$ すなわち $x=2$ のときである。

(2) $x^2+6xy+11y^2=(x^2+6xy+9y^2)-9y^2+11y^2$

$= (x+3y)^2+2y^2 \geq 0$

等号が成り立つのは, $x+3y=0$ かつ $y=0$ すなわち $x=y=0$ のときである。

(3) $2(x^2+3y^2)-5xy=2\left(x^2-\frac{5}{2}xy\right)+6y^2=2\left(x-\frac{5}{4}y\right)^2-2\cdot\frac{25}{16}y^2+6y^2$

$= 2\left(x-\frac{5}{4}y\right)^2+\frac{23}{8}y^2 \geq 0$

よって $2(x^2+3y^2) \geq 5xy$

等号が成り立つのは, $x-\frac{5}{4}y=0$ かつ $y=0$ すなわち $x=y=0$ のときである。

(4) $x^2+2xy+5y^2-4x-8y+5=x^2+2(y-2)x+5y^2-8y+5$

$= [x^2+2(y-2)x+(y-2)^2]-(y-2)^2+5y^2-8y+5$

$= [x+(y-2)]^2+4y^2-4y+1$

$= (x+y-2)^2+(2y-1)^2 \geq 0$

等号が成り立つのは, $x+y-2=0$ かつ $2y-1=0$, すなわち $x=\frac{3}{2}, y=\frac{1}{2}$ のとき

である。

3

【解答】 (1) 証明略, $a=0$ または $b=0$ (2) 証明略, $b=0$ または $a=b$

(3) 証明略, $a=b$ または $a=-b$

【解説】

(1) $(7\sqrt{a}+2\sqrt{b})^2-(\sqrt{49a+4b})^2=(49a+28\sqrt{ab}+4b)-(49a+4b)$
 $= 28\sqrt{ab} \geq 0 \dots\dots \textcircled{1}$

よって $(7\sqrt{a}+2\sqrt{b})^2 \geq (\sqrt{49a+4b})^2$

$7\sqrt{a}+2\sqrt{b} \geq 0, \sqrt{49a+4b} \geq 0$ であるから

$7\sqrt{a}+2\sqrt{b} \geq \sqrt{49a+4b}$

等号が成り立つのは, ①から $a=0$ または $b=0$ のとき。

(2) $(\sqrt{a-b})^2-(\sqrt{a}-\sqrt{b})^2=(a-b)-(a-2\sqrt{ab}+b)$
 $= 2\sqrt{b}(\sqrt{a}-\sqrt{b}) \dots\dots \textcircled{1}$

$a \geq b \geq 0$ のとき $2\sqrt{b}(\sqrt{a}-\sqrt{b}) \geq 0$

よって $(\sqrt{a-b})^2 \geq (\sqrt{a}-\sqrt{b})^2$

$\sqrt{a-b} \geq 0, \sqrt{a}-\sqrt{b} \geq 0$ であるから $\sqrt{a-b} \geq \sqrt{a}-\sqrt{b}$

等号が成り立つのは, ①から, $\sqrt{b}=0$ または $\sqrt{a}-\sqrt{b}=0$

すなわち $b=0$ または $a=b$ のときである。

(3) $\{\sqrt{2(a^2+b^2)}\}^2-(|a|+|b|)^2=2(a^2+b^2)-(a^2+2|a||b|+b^2)$
 $= a^2-2|a||b|+b^2=(|a|-|b|)^2 \geq 0$

よって $\{\sqrt{2(a^2+b^2)}\}^2 \geq (|a|+|b|)^2$

$\sqrt{2(a^2+b^2)} \geq 0, |a|+|b| \geq 0$ であるから $\sqrt{2(a^2+b^2)} \geq |a|+|b|$

等号が成り立つのは, $|a|-|b|=0$ のとき,

すなわち, $|a|=|b|$ より $a=b$ または $a=-b$ のとき

4

【解答】 (1) 証明は略, 等号成立は $a=3$ のとき

(2) 証明は略, 等号成立は $a=2b$ のとき

(3) 証明は略, 等号成立は $a+b=1$ のとき

【解説】

相加平均と相乗平均の大小関係を利用する。

(1) $a > 0$ であるから $a+\frac{9}{a} \geq 2\sqrt{a \cdot \frac{9}{a}}=6$

等号が成り立つのは, $a=\frac{9}{a}$ すなわち $a^2=9$ のときであるが,

$a > 0$ であるから $a=3$ のときである。

(2) (左辺) $= 4+\frac{a}{b}+\frac{4b}{a} \geq 4+2\sqrt{\frac{a}{b} \cdot \frac{4b}{a}}=8$

等号が成り立つのは, $\frac{a}{b}=\frac{4b}{a}$ すなわち $a^2=4b^2$ のときであるが,

$a > 0, b > 0$ であるから $a=2b$ のときである。

(3) $a+b > 0$ であるから

(左辺) $= \frac{2}{a+b}+2(a+b) \geq 2\sqrt{\frac{2}{a+b} \cdot 2(a+b)}=4$

等号が成り立つのは, $\frac{2}{a+b}=2(a+b)$ すなわち $(a+b)^2=1$ のときであるが,

$a+b > 0$ であるから $a+b=1$ のときである。

5

【解答】 (1) $x=1$ で最小値 4 (2) $a=2b$ のとき最小値 49

【解説】

(1) $x+\frac{9}{x+2}=x+2+\frac{9}{x+2}-2$

$x > 0$ より $x+2 > 0, \frac{9}{x+2} > 0$ であるから, 相加平均と相乗平均の大小関係により

$x+2+\frac{9}{x+2} \geq 2\sqrt{(x+2) \cdot \frac{9}{x+2}}=2 \cdot 3=6$

ゆえに $x+\frac{9}{x+2} \geq 4$

等号が成り立つのは, $x+2=\frac{9}{x+2}$ のときである。

このとき $(x+2)^2=9$

$x+2 > 0$ であるから $x+2=3$

ゆえに $x=1$

したがって $x=1$ で最小値 4

(2) $(2a+3b)\left(\frac{8}{a}+\frac{3}{b}\right)=25+\frac{24b}{a}+\frac{6a}{b}$

$a > 0, b > 0$ より, $\frac{24b}{a} > 0, \frac{6a}{b} > 0$ であるから,

(相加平均) \geq (相乗平均) により

$\frac{24b}{a}+\frac{6a}{b} \geq 2\sqrt{\frac{24b}{a} \cdot \frac{6a}{b}}=24$

よって $25+\frac{24b}{a}+\frac{6a}{b} \geq 25+24=49$

等号が成り立つのは, $\frac{24b}{a}=\frac{6a}{b}$ のときである。

このとき $a^2=4b^2$ $a > 0, b > 0$ であるから $a=2b$

したがって $a=2b$ のとき最小値 49

第4講 レベルA

1

【解答】 (1) 略 (2) 略

【解説】

(1) $a+b=1$ から $b=1-a$

$$\begin{aligned} \text{よって } a^2+b^2-\frac{1}{2} &= a^2+(1-a)^2-\frac{1}{2} \\ &= 2a^2-2a+\frac{1}{2} = 2\left(a-\frac{1}{2}\right)^2 \geq 0 \end{aligned}$$

したがって $a^2+b^2 \geq \frac{1}{2}$

(2) $a+b+c=1$ から $c=1-(a+b)$

$$\begin{aligned} \text{よって } a^2+b^2+c^2-\frac{1}{3} &= a^2+b^2+[1-(a+b)]^2-\frac{1}{3} \\ &= 2a^2+2ab+2b^2-2a-2b+\frac{2}{3} \\ &= 2\left(a^2+(b-1)a\right)+2b^2-2b+\frac{2}{3} \\ &= 2\left(a+\frac{b-1}{2}\right)^2-2\left(\frac{b-1}{2}\right)^2+2b^2-2b+\frac{2}{3} \\ &= 2\left(a+\frac{b-1}{2}\right)^2+\frac{3}{2}\left(b^2-\frac{2}{3}b+\frac{1}{9}\right) \\ &= 2\left(a+\frac{b-1}{2}\right)^2+\frac{3}{2}\left(b-\frac{1}{3}\right)^2 \geq 0 \end{aligned}$$

したがって $a^2+b^2+c^2 \geq \frac{1}{3}$

2

【解答】 略

【解説】

$|a|<1$ から $-1<a<1$

$a>-1$ の両辺に b を加えて $a+b>b-1$

$b>1$ より, $b-1>0$ であるから $a+b>0$

ゆえに $\frac{ab+1}{a+b}+1 = \frac{ab+1+a+b}{a+b} = \frac{(a+1)(b+1)}{a+b} > 0$,

$$1 - \frac{ab+1}{a+b} = \frac{a+b-1-ab}{a+b} = \frac{(1-a)(b-1)}{a+b} > 0$$

よって $-1 < \frac{ab+1}{a+b} < 1$

3

【解答】 (1) 略 (2) 略

【解説】

(1) [1] $|a|-|b|<0$ のとき

$|a+b| \geq 0$ であるから, $|a|-|b| < |a+b|$ は成り立つ。

[2] $|a|-|b| \geq 0$ のとき

$$\begin{aligned} |a+b|^2 - (|a|-|b|)^2 &= a^2+2ab+b^2 - (a^2-2|a||b|+b^2) \\ &= 2(ab+|ab|) \geq 0 \end{aligned}$$

よって $(|a|-|b|)^2 \leq |a+b|^2$

$|a|-|b| \geq 0$, $|a+b| \geq 0$ であるから $|a|-|b| \leq |a+b|$

[1], [2] から $|a|-|b| \leq |a+b|$

(2) $\sqrt{14}-\sqrt{10} > \sqrt{15}-\sqrt{11}$ を示すには, $\sqrt{14}+\sqrt{11} > \sqrt{15}+\sqrt{10}$ を示せばよい。

$$\sqrt{14}+\sqrt{11} > 0, \sqrt{15}+\sqrt{10} > 0 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

両辺の平方の差をとると

$$\begin{aligned} (\sqrt{14}+\sqrt{11})^2 - (\sqrt{15}+\sqrt{10})^2 &= (14+2\sqrt{14}\cdot 11+11) - (15+2\sqrt{15}\cdot 10+10) \\ &= 2(\sqrt{154}-\sqrt{150}) > 0 \end{aligned}$$

よって $(\sqrt{14}+\sqrt{11})^2 > (\sqrt{15}+\sqrt{10})^2$

ゆえに, $\textcircled{1}$ から $\sqrt{14}+\sqrt{11} > \sqrt{15}+\sqrt{10}$

したがって $\sqrt{14}-\sqrt{10} > \sqrt{15}-\sqrt{11}$

4

【解答】 (ア) 25 (イ) $\frac{1}{6}$

【解説】

$$\left(9x+\frac{1}{y}\right)\left(4y+\frac{1}{x}\right) = 36xy+9+4+\frac{1}{xy} = 13+36xy+\frac{1}{xy}$$

$x>0, y>0$ より, $36xy>0, \frac{1}{xy}>0$ であるから, 相加平均・相乗平均の大小関係により

$$36xy+\frac{1}{xy} \geq 2\sqrt{36xy \cdot \frac{1}{xy}} = 12$$

よって $13+36xy+\frac{1}{xy} \geq 13+12=25$

等号が成り立つのは, $36xy = \frac{1}{xy}$ (>0) すなわち $xy = \frac{1}{6}$ のときである。

ゆえに, $x>0, y>0$ において, $\left(9x+\frac{1}{y}\right)\left(4y+\frac{1}{x}\right)$ は $xy = \frac{1}{6}$ のとき最小値 25 をとる。

したがって, $x>0, y>0$ のとき, 不等式 $\left(9x+\frac{1}{y}\right)\left(4y+\frac{1}{x}\right) \geq k$ が常に成り立つような定数 k の最大値は 25

また, $k=25$ のとき等号が成り立つのは, $xy = \frac{1}{6}$ のときである。

5

【解答】 証明略, $a = \frac{3}{2}, b = \frac{2}{3}, c = 6$

【解説】

$$\begin{aligned} \text{(左辺)} &= \left(ab+\frac{4a}{c}+1+\frac{4}{bc}\right)\left(c+\frac{9}{a}\right) \\ &= abc+9b+4a+\frac{36}{c}+c+\frac{9}{a}+\frac{4}{b}+\frac{36}{abc} \\ &= \left(4a+\frac{9}{a}\right)+\left(9b+\frac{4}{b}\right)+\left(c+\frac{36}{c}\right)+\left(abc+\frac{36}{abc}\right) \end{aligned}$$

各項はすべて正であるから, (相加平均) \geq (相乗平均) により

$$\begin{aligned} \text{(左辺)} &\geq 2\sqrt{4a \cdot \frac{9}{a}} + 2\sqrt{9b \cdot \frac{4}{b}} + 2\sqrt{c \cdot \frac{36}{c}} + 2\sqrt{abc \cdot \frac{36}{abc}} \\ &= 12+12+12+12=48 \end{aligned}$$

よって $\left(a+\frac{1}{b}\right)\left(b+\frac{4}{c}\right)\left(c+\frac{9}{a}\right) \geq 48$

等号が成り立つのは

$$4a = \frac{9}{a} \text{ かつ } 9b = \frac{4}{b} \text{ かつ } c = \frac{36}{c} \text{ かつ } abc = \frac{36}{abc}$$

すなわち $a = \frac{3}{2}, b = \frac{2}{3}, c = 6$ のときである。

【別解】 $a>0, b>0, c>0$ であるから, (相加平均) \geq (相乗平均) により

$$a+\frac{1}{b} \geq 2\sqrt{\frac{a}{b}} \quad \dots\dots \textcircled{1}, \quad b+\frac{4}{c} \geq 2\sqrt{\frac{4b}{c}} \quad \dots\dots \textcircled{2}, \quad c+\frac{9}{a} \geq 2\sqrt{\frac{9c}{a}} \quad \dots\dots \textcircled{3}$$

この3つの不等式の各辺はすべて正であるから, 辺々掛けて

$$\left(a+\frac{1}{b}\right)\left(b+\frac{4}{c}\right)\left(c+\frac{9}{a}\right) \geq 8\sqrt{\frac{a}{b} \cdot \frac{4b}{c} \cdot \frac{9c}{a}} = 8 \cdot 6 = 48$$

等式が成り立つのは, $\textcircled{1}, \textcircled{2}, \textcircled{3}$ のすべてで等号が成り立つとき, すなわち $ab=1 \quad \dots\dots \textcircled{1}', \quad bc=4 \quad \dots\dots \textcircled{2}', \quad ca=9 \quad \dots\dots \textcircled{3}'$ のときである。

$\textcircled{1}', \textcircled{2}', \textcircled{3}'$ の辺々を掛けて $(abc)^2 = 36$

$abc > 0$ であるから $abc = 6 \quad \dots\dots \textcircled{4}$

$\textcircled{4}$ と $\textcircled{2}', \textcircled{4}$ と $\textcircled{3}', \textcircled{4}$ と $\textcircled{1}'$ から, それぞれ

$$a = \frac{3}{2}, \quad b = \frac{2}{3}, \quad c = 6$$

6

【解答】 (1) (ア) $\sqrt{3}$ (イ) $2\sqrt{3}-4$ (2) (ウ) $-1+\sqrt{3}$ (エ) 6

【解説】

$$(1) \frac{x^2-4x+3}{x} = x-4+\frac{3}{x}$$

$x>0, \frac{3}{x}>0$ であるから, 相加平均と相乗平均の大小関係により

$$x+\frac{3}{x} \geq 2\sqrt{x \cdot \frac{3}{x}} = 2\sqrt{3}$$

ゆえに $x-4+\frac{3}{x} \geq 2\sqrt{3}-4$

等号が成り立つのは, $x>0$ かつ $x = \frac{3}{x}$ のとき,

すなわち $x = \sqrt{3}$ のときである。

したがって, $\frac{x^2-4x+3}{x}$ は $x = \sqrt{3}$ のとき, 最小値 $2\sqrt{3}-4$ をとる。

$$(2) x^2+2x+\frac{2}{x}-\frac{2}{x+2}+2 = x(x+2)+\frac{2(x+2)-2x}{x(x+2)}+2$$

$$= x(x+2)+\frac{4}{x(x+2)}+2$$

$x(x+2)>0, \frac{4}{x(x+2)}>0$ であるから, 相加平均と相乗平均の大小関係により

$$x(x+2)+\frac{4}{x(x+2)} \geq 2\sqrt{x(x+2) \cdot \frac{4}{x(x+2)}} = 4$$

ゆえに $x(x+2)+\frac{4}{x(x+2)}+2 \geq 6$

等号が成り立つのは, $x>0$ かつ $x(x+2) = \frac{4}{x(x+2)}$ のときである。

$$x(x+2) = \frac{4}{x(x+2)} \text{ から } x^2(x+2)^2 = 4$$

よって $(x^2+2x)^2 - 4 = 0$

ゆえに $(x^2+2x+2)(x^2+2x-2) = 0$

$x^2+2x+2 = (x+1)^2+1 > 0$ であるから $x^2+2x-2 = 0$

これを解いて $x = -1 \pm \sqrt{3}$

$x > 0$ を満たすものは $x = -1 + \sqrt{3}$

したがって、 $x = -1 + \sqrt{3}$ のとき、最小値 $\sqrt{6}$ をとる。

1

解答 略

解説

(左辺) - (右辺) = $x^3 + y^3 + z^3 - 3xyz = (x+y+z)(x^2 + y^2 + z^2 - xy - yz - zx)$

ここで、 $x > 0, y > 0, z > 0$ であるから $x + y + z > 0$

$$\begin{aligned} \text{また } x^2 + y^2 + z^2 - xy - yz - zx &= \frac{1}{2} \{(x^2 - 2xy + y^2) + (y^2 - 2yz + z^2) + (z^2 - 2zx + x^2)\} \\ &= \frac{1}{2} \{(x-y)^2 + (y-z)^2 + (z-x)^2\} \geq 0 \end{aligned}$$

ゆえに $x^3 + y^3 + z^3 \geq 3xyz$ …… ①

参考 等号は $x = y = z = 0$ すなわち $x = y = z$ のとき成り立つ。

$X = \sqrt[3]{x}, Y = \sqrt[3]{y}, Z = \sqrt[3]{z}$ とすると、 X, Y, Z も正の実数であるから、①において

$x = X, y = Y, z = Z$ とすると $X^3 + Y^3 + Z^3 \geq 3XYZ$

すなわち $x + y + z \geq 3 \cdot \sqrt[3]{xyz}$ ゆえに $\frac{x+y+z}{3} \geq \sqrt[3]{xyz}$

参考 等号は $\sqrt[3]{x} = \sqrt[3]{y} = \sqrt[3]{z}$ すなわち $x = y = z$ のとき成り立つ。

2

解答 (1) 略 (2) $\frac{1}{3}$

解説

$$\begin{aligned} (1) (a^2 + b^2 + c^2)(x^2 + y^2 + z^2) - (ax + by + cz)^2 &= a^2x^2 + a^2y^2 + a^2z^2 + b^2x^2 + b^2y^2 + b^2z^2 + c^2x^2 + c^2y^2 + c^2z^2 - a^2x^2 - b^2y^2 - c^2z^2 \\ &\quad - 2abxy - 2bcyz - 2cazx \\ &= a^2y^2 - 2abxy + b^2x^2 + b^2z^2 - 2bcyz + c^2y^2 + c^2x^2 - 2cazx + a^2z^2 \\ &= (ay - bx)^2 + (bz - cy)^2 + (cx - az)^2 \geq 0 \end{aligned}$$

よって、 $(a^2 + b^2 + c^2)(x^2 + y^2 + z^2) \geq (ax + by + cz)^2$ が成り立つ。

(2) (1)の不等式で $a = b = c = 1$ とおくと

$$3(x^2 + y^2 + z^2) \geq (x + y + z)^2 = 1$$

$$\text{よって } x^2 + y^2 + z^2 \geq \frac{1}{3}$$

等号が成り立つのは、 $y - x = z - y = x - z = 0$ すなわち $x = y = z$ のとき。

このとき、 $x + y + z = 1$ から $x = y = z = \frac{1}{3}$

したがって、 $x^2 + y^2 + z^2$ は $x = y = z = \frac{1}{3}$ のとき最小値 $\frac{1}{3}$ をとる。

3

解答 $\frac{a+2}{a+1}, \sqrt{2}, \frac{a}{2} + \frac{1}{a}$

解説

$a > \sqrt{2}$ であるから $a - \sqrt{2} > 0$

$$\begin{aligned} \sqrt{2} - \frac{a+2}{a+1} &= \frac{\sqrt{2}(a+1) - (a+2)}{a+1} = \frac{(\sqrt{2}-1)a - \sqrt{2}(\sqrt{2}-1)}{a+1} \\ &= \frac{(\sqrt{2}-1)(a-\sqrt{2})}{a+1} > 0 \end{aligned}$$

よって $\frac{a+2}{a+1} < \sqrt{2}$

$$\text{また } \frac{a}{2} + \frac{1}{a} - \sqrt{2} = \frac{a^2 + 2 - 2\sqrt{2}a}{2a} = \frac{(a-\sqrt{2})^2}{2a} > 0$$

よって $\sqrt{2} < \frac{a}{2} + \frac{1}{a}$

したがって、3つの数を小さい方から順に並べると

$$\frac{a+2}{a+1}, \sqrt{2}, \frac{a}{2} + \frac{1}{a}$$

4

解答 $a = b = c$ のとき最小値 8

解説

$P = \frac{(a+b)(b+c)(c+a)}{abc}$ とおくと

$$\begin{aligned} P &= \left(1 + \frac{b}{a}\right) \left(1 + \frac{c}{b}\right) \left(1 + \frac{a}{c}\right) = \left(1 + \frac{b}{a}\right) \left(1 + \frac{a}{c} + \frac{c}{b} + \frac{a}{b}\right) \\ &= \left(1 + \frac{a}{c} + \frac{c}{b} + \frac{a}{b}\right) + \left(\frac{b}{a} + \frac{b}{c} + \frac{c}{a} + 1\right) \\ &= 2 + \left(\frac{a}{b} + \frac{b}{a}\right) + \left(\frac{b}{c} + \frac{c}{b}\right) + \left(\frac{c}{a} + \frac{a}{c}\right) \end{aligned}$$

$a > 0, b > 0, c > 0$ であるから、(相加平均) \geq (相乗平均) により

$$\frac{a}{b} + \frac{b}{a} \geq 2\sqrt{\frac{a}{b} \cdot \frac{b}{a}} = 2 \quad (\text{等号成立は } a = b \text{ のとき})$$

$$\frac{b}{c} + \frac{c}{b} \geq 2\sqrt{\frac{b}{c} \cdot \frac{c}{b}} = 2 \quad (\text{等号成立は } b = c \text{ のとき})$$

$$\frac{c}{a} + \frac{a}{c} \geq 2\sqrt{\frac{c}{a} \cdot \frac{a}{c}} = 2 \quad (\text{等号成立は } c = a \text{ のとき})$$

よって $P \geq 2 + 2 \times 3 = 8$

したがって、 $a = b = c$ のとき最小値 8 をとる。

別解 $a > 0, b > 0, c > 0$ であるから、(相加平均) \geq (相乗平均) により

$$a + b \geq 2\sqrt{ab}, \quad b + c \geq 2\sqrt{bc}, \quad c + a \geq 2\sqrt{ca}$$

(等号成立は、それぞれ $a = b, b = c, c = a$ のとき)

それぞれ、両辺ともに正であるから辺々を掛けると

$$(a+b)(b+c)(c+a) \geq 8abc$$

よって $\frac{(a+b)(b+c)(c+a)}{abc} \geq 8$

したがって、 $a = b = c$ のとき最小値 8 をとる。